

経済同友会主催

第3回「パラスポーツ運動会」を開催

いよいよ東京オリンピック・パラリンピックの年。
国内最大級のパラスポーツイベントが盛り上がる

2月4日、経済同友会主催の「パラスポーツ運動会」が、武蔵野の森総合スポーツプラザのメインアリーナ(東京・調布市)で開催された。3回目の開催になる今年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されることもあって、昨年よりも3チーム増えて21チーム406人が参加。歓声と笑顔、熱気が溢れるイベントになった。

東京パラリンピックが終わっても
より一層盛り上げていく

本会会員の企業経営者と社員で構成された21チーム全員が整列すると規模の大きさに圧倒される。赤、青、緑、黄などのユニホームがとても鮮やかだ。

開会式では、櫻田謙悟代表幹事が「昨年同様、国内最大級のパラスポーツイベントになった。今年も東京オリンピック・パラリンピックが開催されるので、パラスポーツをより一層応援していきたい。そしてパラリンピック後もさら

に継続的に支援を続けていきたい。経済同友会は、東京2020大会の後に、良いレガシーを残していくために、“Do”していきたい」と挨拶した。

開会式後は、初対面同士の緊張をほぐすため、アイマスクを着けてのゲーム、アイスブレイクが行われた。日本財団パラリンピックサポートセンター推進戦略部の伊吹祐輔プロジェクトリーダーによるゲームや競技の説明に、会場は大いに盛り上がり、笑いに包まれた。その後、第1種目のボッチャが始まった。選手が投げたボールの行方を

チームメイトと応援者全員で注目し、一投ごとに一喜一憂する。競技に挑戦する選手から真剣さや集中力が伝わってくる。参加チームに配布されたハリセンや軽快なBGMが試合を盛り上げた。

「来年も開催して」
パラスポの意義、参加者に浸透

ボッチャに続き、シッティングバレー



ボッチャをプレーする櫻田代表幹事(中央)

プレーした4競技

①ボッチャ

2チームに分かれ、ジャックボール(白いボール)を投げた後、それぞれ赤・青色のボール各6個を遠い方から順に投げ合う。ボールをジャックボールにより近付けたチームが勝ち。



参加企業チーム一覧

(敬称略、役職は開催時。代表者は経済同友会会員のみ掲載)

チーム名	代表者(会員)
マーシュ ブローカー ジャパン	平賀 暁 東京オリンピック・パラリンピック2020委員会 副委員長
日本航空	大西 賢 東京オリンピック・パラリンピック2020委員会 委員長
オイシックス・ラ・大地	高島 宏平 東京オリンピック・パラリンピック2020委員会 委員長
三菱ケミカルホールディングス	
あいおいニッセイ同和損害保険	吉田 靖之 東京オリンピック・パラリンピック2020委員会 委員
アイスタイル	吉松 徹郎 東京オリンピック・パラリンピック2020委員会 副委員長
全日本空輸	
フジタ	奥村 洋治 東京オリンピック・パラリンピック2020委員会 副委員長
住友林業	佐藤 建 幹事
フューチャー	齋藤 洋平 幹事
アクセント	程 近智 副代表幹事
SOMPOホールディングス	櫻田 謙悟 代表幹事
AGC	石村 和彦 副代表幹事
凸版印刷	
キッコーマン	堀切 功章 東京オリンピック・パラリンピック2020委員会 委員
ルネサンス	堀田 利子 幹事
日本電気	
松屋	秋田 正紀 副代表幹事
日本信号	
CAC Holdings	島田 俊夫 幹事



ゲームを解説する伊吹リーダー

ボール(ソフト)、車いすポートボールと熱戦が繰り広げられ、車いすリレーが決戦の舞台となった。リレーではアクセンチュアチームが勝ったが、最終的にはオイシックス・ラ・大地チームが総合優勝に輝いた。アクセンチュアチームは準優勝、第3位はフューチャーチームだった。また、全日本空輪

チームなど4チームに参加企業が提供する特別賞が贈られた。

閉会式で本会の大西賢東京オリンピック・パラリンピック2020委員会委員長は、「夢はパラリンピックの全会場を埋めきる。ぜひ皆さんで、会場を観客で溢れ返させてほしい」と参加者に協力を求めた。また、表彰された各チームから「来年もぜひ開催を」との声が上がったことから、「継続していきたい」と大西委員長は語った。同じく高島宏平委員長は「パラスポーツは弱者を支援するものではなくスポーツやエンターテインメントとして楽しむもの。今日はそれを皆さんに味わっていただけて

うれしかった」と評価。「大事なことは(健常者と障害者という)区別のない社会をつくること。経済同友会はそこに役立っていける」と、本会がその役目を果たしていく決意を語った。橋本圭一郎専務理事は閉会の挨拶の中で、「ポスト2020を見据え、パラスポーツの持続的な成長のため、引き続きご理解とご協力をいただきたい」と訴えた。



左から、本大会を企画した高島・大西両委員長と橋本専務理事



総合成績(上位3チーム)

優勝 オイシックス・ラ・大地

「パラスポーツはハンディキャップの有無関係なくお互い一人のプレーヤーとして分け隔てなく気持ちを一つにできるもの。高島社長が連盟理事長を務める車いすラグビーをはじめ、いろいろなパラスポーツをみんなで応援したい」



準優勝 アクセンチュア
第3位 フューチャー

② シットイングバレーボール(ソフト)

床に臀部の一部が接触した状態で、1チーム6人でプレーするバレーボール。ネットは座ったままスパイクが打てる高さ。プレー中に臀部を床から浮かすと反則を取られる。



③ 車いすポートボール

車いすバスケットボールをベースに、よりプレーしやすいようアレンジ。ドリブルやパスでボールを運び、自チームのゴールマンにパス。ゴールマンがキャッチできれば得点となる。



④ 車いすリレー

車いすバスケットボール競技用の車いすを使い、リレー形式で行うタイムトライアル。今回は直線コースの予選で上位6チームを決め、決勝戦をトラック1周で行うルールとした。

